

3 章 たしま 田島校区



0 500 1000m

3章 田島校区

1. 田島八幡神社

【所在地】城南区田島4丁目3

①田島八幡神社

【概要】応神天皇、神功皇后、住吉三柱神を祀る。
例年7月の第二土曜日には、田島神楽が行われており、多くの人でにぎわう。

【境内祠堂等】②菅原神社、③保食大神（「稻荷神社」）、④大山祇神社（山神様）、⑤庚申尊（「猿田彦大神」）、その他奉納された灯籠や「きんのうばし」の親柱、さらに明治三十六年の銘のある記念碑など、多くの石造物がある。

【碑文等】

*1 境内案内版

田島八幡神社の沿革

祭神 応神天皇

年中行事 元始祭 一月一日

夏祭り 七月第二土曜日

秋祭り 十月第三土曜日

一、八幡神社の創立年は定かではないが田島沿革史によれば、元徳二年（一三三〇）の地図に初めて田島の地名が記されている。また田島が開かれた時から毎年六月一日に神楽が奉納され八幡神社を落合（現友泉亭）に奉祀する。

一、文亀三年（一五〇三）落合に奉仕していた八幡神社を現在地に遷座奉仕する。

一、天文十五年（一五四六）八幡神社の再建をする。

一、文政十三年（一八三〇）天満宮を末社として神域に祭祀する。

一、明治三年（一八七〇）保食大神を神域に祭り分神を社日山（現田島三丁目）に祭っていたが昭和初期に神域に移し祭祀する。

一、明治五年（一八七二）八幡神社が村社に指定される。

一、明治十一年（一八七八）明治十年の火災による八幡神社焼失のため再建する。

一、明治十五年（一八八二）山神を末社として神域に祭祀する。

一、大正十一年（一九二二）八幡神社が共進社に指定される。

一、昭和二十年（一九四五）米軍の空爆による火災のため八幡神社の器物、文書等を疎開先で焼失する。

一、昭和二十八年（一九五三）八幡神社が宗教法人として認定される。

一、平成五年（一九九三）八幡神社が福岡アムニティ百選に認定される。

一、平成十年（一九九八）田島神楽が伝統芸能

として福岡市無形文化財に指定される。

一、平成十三年（二〇〇一）社務所及び御神庫の建て替え工事を施工する。

一、平成十四年（二〇〇二）社殿及び祝詞殿、神楽殿の修築工事を施工する。

一、神域には古樹老木が多く、樟、銀杏、榎等樹齢数百年に及ぶ巨木があり、福岡市の保存樹として十二本が指定されている

平成十四年 七月吉日

【参考文献】現代語版田島沿革史発行委員会編
1996『現代語版 田島沿革史』福岡市大字田島財産区 p.2-7、初版（『田島沿革史』）1897年。



田島八幡神社の社殿（2011.7.9、田島神楽の日に撮影）

②「菅原神社」

【概要】境内の北側に位置する。菅原道真を祀る。前方に「菅原神社（天満宮） 御祭神菅原道真公 学業御守護の神」と書かれたのぼりが立てられている（2013年2月時点）。



「菅原神社」(2013.2.22 撮影)

③保食大神（「稻荷神社」）

【概要】境内の北側に位置する。保食大神を祀る。前方に「稻荷神社 御祭神 保食大神 衣食住・五穀豊穰の神」と書かれた幟が立つ（2013年2月時点）。

【銘文】〔表〕保食大神



保食大神（「稲荷神社」、2013.2.22 撮影）

④「大山祇神社」

【概要】神社社殿の東側にある。大山積命おおやまずみのみことを祀る。前方に「大山祇神社（山神様） 御祭神 大山積命 山地開拓・林業・鉱業の神」と書かれた幟が立てられている（2013年2月時点）。



「大山祇神社」(2013.2.22 撮影)

⑤庚申尊（「猿田彦大神」）

【概要】境内入口の鳥居付近にある。表面には、「庚申尊」と刻印があるが、横の説明板には「猿田彦大神」と書かれている。『福岡市の庚申塔』によると、材質は花崗岩、法量 93.0×46.0。年代は明和七年（福岡市教育委員会編 1993: 109）。

【銘文】[表] 庚申尊、[表右] 明和庚寅七年、[表左] 三月吉日

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会（p.49、p.109、該当 NO.194 城・3）



庚申尊（2013.2.22 撮影）

⑥保食大神

【概要】田島公会堂の南側に位置し、2本の木の間にある。③保食大神（「稲荷神社」）とは別のものである。

【銘文】[表] 保食大神、[裏] 明治十一年戊寅



保食大神（木の間にある、後方は田島公会堂）

2013.2.22 撮影）

2. 観音堂と十三仏

【所在地】城南区田島 1 丁目 4

【概要】田島八幡神社の鳥居から北へ100メートルほど行ったところに、観音堂と十三仏が祀られている。

【境内祠堂等】

観音堂、十三仏、説明板*1 など。

【碑文等】

*1 説明板

地藏尊の由来—早良郡志より

観音堂、十三仏は享保十七年（紀元二三九二年）大飢饉により農作物は凶作で全滅状態でした。又疫病が流行して地域住民の多数の生命を失いました。村では食事の炊き出しをしたりしました。餓死者もたくさんでました。付近の人達は供養する為、観音堂（観世音菩薩）と十三仏を建立し奉っています。

身体のよわい方がお参りして元気になられた方などおられます。

平成十七年福岡県西方沖地震で建物が崩壊し

ましたので、建替えて新しくなりました。御浄財に協力頂きました皆様のお陰です。

毎月四日、十四日、二十四日には近所の方は花の取り替え清掃等を行っています。

平成十八年七月吉日



写真向かって左が観音堂、その右が十三仏(2013.2.20 撮影)

3. 「大日如来」の堂

【所在地】城南区田島4丁目6-3(個人宅敷地内)

【概要】「大日如来」と額に書かれたお堂に聖観世音が祀られている。



(堂内左側が聖観世音、2013.3.9 撮影)

4. 愛宕地藏菩薩(愛宕地藏菩薩板碑)

【所在地】城南区田島3丁目1(個人宅敷地内)

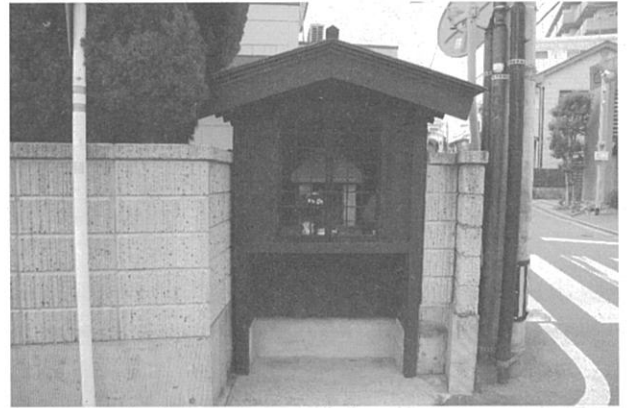
【概要】田島八幡神社北の道路を同神社から150メートルほど西へ行った交差点付近にある。以下、『福岡市の板碑』より抜粋。

「愛宕地藏菩薩板碑 所在地 城南区田島三丁目

砂岩製の類型の小型板碑である。総高38.5cm、幅13.8cm、厚8.1cm、頂部が二条線上まで4.2cm、二条線縦幅2.0cm、額部縦幅4.6cm、脚部8.0cmを測る。立て7.0cm、横3.5cmの比較的縦長の種子カ(地藏菩薩)を薬研彫りする。種子カの下に中心線から少し右にずれて「地藏」の二字を竹彫り(断面U字型)する。「地藏」の二字は種子よりも大きい。(中略)「地藏」の二字は後刻であ

るかも知れない」(福岡市教育委員会文化財整備課編1992:54)

【参考文献】福岡市教育委員会文化財整備課編1992『福岡市の板碑』福岡市教育委員会文化財整備課p.54



愛宕地藏菩薩(写真右の道路を手前方面へ行くと田島八幡宮、2013.2.22 撮影)

5. お大日さま

【所在地】城南区田島2丁目8(個人宅敷地内)

【概要】「4.愛宕地藏菩薩」のある交差点から少し北へ行ったところの個人宅にある。金剛界大日如来像が祀られている。お堂の前には、「奉寄進明治十二年卯十二月吉日」と銘のある円柱形で石造のお手水洗台がある。

【銘文】[台座の表] 第四番 大日 長永太



お大日さまのお堂(2013.2.22 撮影)